

【問い】昨年11月にぶどう膜炎と診断され、目薬をさしていましたが、良くなったのでやめたら再発しました。軽度の白内障があり、視力の低下があるので手術したいと思いますが、ぶどう膜炎があると手術のリスクが高くなると言われました。どうしたらいいでしょうか。(女性、64歳)

ぶどう膜炎



安積淳医師

【答え】眼内に何らかの炎症がある状態を、ぶどう膜炎と呼んでいます。ぶどう膜炎は眼球を裏打ちする組織で、眼内に入る光の量を調節する虹

原因特定へ詳しい検査を

彩、ピント調節をする毛様体、網膜に栄養を供給する脈絡膜の総称です。色素と血管が多く外観がブドウの果皮に似ているため、ぶどう膜と名が付いています。

実際にぶどう膜炎を引き起こす疾患は30種類以上あるのですが、どの疾患かによって治療方針が変わります。国内ではサル

コイドシス、ベーチェット病、原因病が頻度の高い三大ぶどう膜炎として知られています。いずれも根本的な炎症の原因は分かっています。一方、ヘルペスや結核などの感染症も、ぶどう膜炎を引き起こします。これらは同じぶどう膜炎でも治療戦略が全く異なります。従って詳しい検査を受け、疾患を同定することが重要ですが、実際には検査をしても約4割は病名が分

かりません。このため、取りあえず炎症を鎮める目薬が処方される場合があります。白内障の手術は、ぶどう膜炎が沈静化していれば可能です。ただ、術後に炎症が強くなり、術後の見え方に影響したりすることもあります。眼内に炎症が起こったとき、眼内だけではなく全身に症状が

出ていることがあります。例えば、サルコイドシスでは肺にもしばしば病変が生じます。ぶ

このコーナーに相談したい具体的な症状をお寄せください。採用分について医師がお答えします。〒650-8571 神戸新聞社 文化生活部。下記のファクス番号、メールアドレスでも受け付けます。住所、氏名、年齢、電話番号をお忘れなく。

— 金曜掲載 —